

令和 4 年 5 月 31 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18H03095

研究課題名(和文) 家族同心球環境理論を用いたグローバルな介入研究と家族臨地推論による家族支援の確立

研究課題名(英文) Establishing family support through utilization of global research into intervention, via application of the Concentric Sphere Family Environment Theory and clinical reasoning for the family

研究代表者

法橋 尚宏 (Hohashi, Naohiro)

神戸大学・保健学研究科・教授

研究者番号：60251229

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,000,000円

研究成果の概要(和文)：日本の幅広い地域およびさまざまな国・地域において、さまざまな家族症候(家族の問題・課題・困難・苦悩)をもつ家族や看護職者などに調査を行った。家族同心球環境理論にもとづいて、家族レジリエンス不足のスクリーニング尺度などの新しい家族アセスメントモデル、治療的コミュニケーションなどの新しい家族支援策を開発した。これらの基盤となる家族同心球環境理論などの修正、家族ピラーシステム理論や家族トランセンデンス理論などの提唱に至った。開発したツールなどは、英語、中国語、インドネシア語、フィリピン語などに翻訳した。これらの研究成果にもとづいて、一般市民を対象として、対面あるいはオンラインで家族支援を実践した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

家族同心球環境理論は、研究代表者が提唱した日本発の家族看護中範囲理論であり、世界中で使用されている。これを修正し、さらに、その特殊理論として、家族ピラーシステム理論、家族トランセンデンス理論などを新しく提唱することで、世界における家族看護学の基盤を強靱化することができた。実践事例を蓄積することで、さまざまな家族症候に対して理論に立脚した適切な家族支援ができるようになった。日本の幅広い地域およびさまざまな国・地域において、一般市民を対象として、対面あるいはオンラインで家族支援を実践している。これは理論のトランスレーションとしての意義をもち、一般市民の家族ウェルビーイングの実現にも貢献している。

研究成果の概要(英文)：Surveys were conducted involving families with various family symptoms/signs (family problems, issues, difficulties or suffering) and nurses in a wide range of areas of Japan, as well as in various countries/regions. Based on the Concentric Sphere Family Environment Theory, a new family assessment model was developed that included a Screening Scale for Insufficiencies in Family Resilience, and new family support methods such as therapeutic communications. The Concentric Sphere Family Environment Theory, on which the above was based, has undergone revisions. In addition, the Family Belief Systems Theory and the Family Transcendence Theory have been proposed. The developed tools have been translated into English, Chinese, Indonesian, Filipino (Tagalog), and other languages. Based on the research findings, face-to-face and online family support programs for members of the general public were conducted.

研究分野：家族看護学

キーワード：家族同心球環境理論 介入研究 家族臨地推論 家族支援 家族相談室

1. 研究開始当初の背景

家族は、国・地域の文化や価値観などの影響を受けるので、それらに適した家族支援が不可欠である。研究代表者は、1999年から家族同心球環境理論(Concentric Sphere Family Environment Theory, CSFET)の提唱に着手し、日本発の家族アセスメント/家族支援モデルなどの開発に至っている。家族同心球環境理論は、国内外の家族への家族インタビュー/ミーティング、質問紙調査(アセスメントツール)、家族エスノグラフィックリサーチなどにより開発し、英語論文、中国語論文などで公表している。

家族同心球環境理論は、人口が世界第一位の中国に加え、アメリカ、トルコ、スペインなどで、グローバルに活用されており、多文化社会における臨地応用が期待されている。英語と中国語の書籍なども出版されている。家族同心球環境理論は、アメリカや香港などで暮らす家族も対象として開発しており、家族内外の環境をホリスティックに捉えるので、世界中で研究や実践などに活用できる可能性は高い。今後は、家族アセスメント/家族支援モデルなどの精緻化、誰でも、どこでも家族支援ができるように、さらなる普及戦略が課題である。新しい家族支援モデルとして、独創的な“家族症候の影響因子スキーマと家族臨地推論”などを試作しており、これをさらに発展させる必要がある。なお、研究代表者が提唱した家族症候とは、主観的かつ客観的な家族データにもとづき、看護職者が総合的に査定した家族の困難状態(問題・課題・困難・苦悩)である。

2. 研究の目的

研究代表者らは、1999年から家族同心球環境理論の提唱、家族アセスメント/家族支援モデルなどを開発し、国内外で普及しはじめている。本研究では、家族同心球環境理論を世界で通用するグローバルな理論とするため、国内外(日本、中国、インドネシアなど)の家族に臨地応用し、広範囲な家族症候に対して多職種協働による介入研究で有効性を実証する。“CSFET式ナースの家族お悩み相談室”を大学内で運営しているが、これまでのトランスレーショナルリサーチを推進し、実践家と協働して新しい家族支援モデル(家族症候の影響因子スキーマと家族臨地推論など)を改良する。家族アセスメントツールなどを用い、アウトカムの検証を繰り返し、即利用できる家族支援モデルを完成し、臨地応用することを目的とする。

3. 研究の方法

家族症候として、“イベントに対する不適応反応を生じる家族ビリーフの存在”“家族レジリエンスの発達不足”“家族の社会規範からの逸脱”“家族の経済危機”“家族の役割構造の瑕疵”“スピリチュアルペインによる家族の苦悩”“家族デマンズの未充足”などをとりあげた。国内外の文献検討などから、家族症候の影響因子(危険・原因/促進因子、予防・阻止/抑制因子、状況依存性因子)と家族支援策を抽出した。

倫理審査委員会の承認後、これらの結果からインタビューガイドを作成し、国内外のさまざまな家族症候をもつ家族や看護職者などに半構造化面接調査を実施し、逐語録の内容分析などから、家族症候への影響因子と家族支援策を明らかにした。さらに、国内外で長期間にわたる家族エスノグラフィックリサーチを実施し、家族症候の影響因子と家族支援策を明らかにした。

研究フィールドは国内外から選定し、日本の幅広い地域(都心部、地方部、島嶼部、山間部)で生活する家族、さまざまな国・地域(中国本土・香港、インドネシア、フィリピン、ベトナムなど)で生活する家族を対象とした。また、2020年に開発したヴァーチャル家族インタビュー/ミーティングから、全方位カメラなどを使用した接続時間無制限のヴァーチャル家族エスノグラフィックリサーチを開発し、遠隔地から家族アセスメント/家族支援を実践した。

“CSFET式ナースの家族お悩み相談室”では、外来家族看護に加え、国内外各地における訪問家族看護、ヴァーチャル家族看護を国内外の家族に実践し、その効果を明らかにした。

4. 研究成果

(1) 家族アセスメント/家族支援モデルの開発と改良

家族同心球環境理論のような中範囲理論は、実践や研究での活用が比較的容易である。家族同心球環境理論にもとづいて家族環境と家族ウェルビーイングの状態をアセスメントするための家族アセスメントモデルである家族環境アセスメントモデル(Family Environment Assessment Model, FEAM)、家族同心球環境理論にもとづいた家族支援モデルである家族環境ケア/ケアリング/ヒーリングモデル(Family Environment Care/Caring/Healing Model, FEC2HM)を開発し、実践体系を整備した。

なお、家族同心球環境理論は、国内外の約1,050家族を対象とした家族インタビュー/ミーティングの実施、約9万件の質問紙調査(家族環境アセスメントツールを含む)の実施、のべ約1,400日の家族エスノグラフィックリサーチなどのマルチメソッド研究にもとづいて開発した世界で通用するグローバルな理論となった。

家族環境アセスメントモデルの改良

家族同心球環境理論を基軸とし、家族ウェルビーイングと家族環境の状態をアセスメントするための家族アセスメントモデルである。これは、“家族観察とインタビュー”と“測定検査”から構成されている。13のアセスメントツールがあり、家族環境アセスメントツールにより全方位的な家族情報を収集し、適切な家族アセスメントが可能になる(図1)。

家族環境ケア/ケアリング/ヒーリングモデルの改良

家族同心球環境理論を基軸とした家族支援モデルである。これには、“CSFET式家族看護過程”と“家族症候の影響因子スキーマと家族臨地推論”がある(図2)。

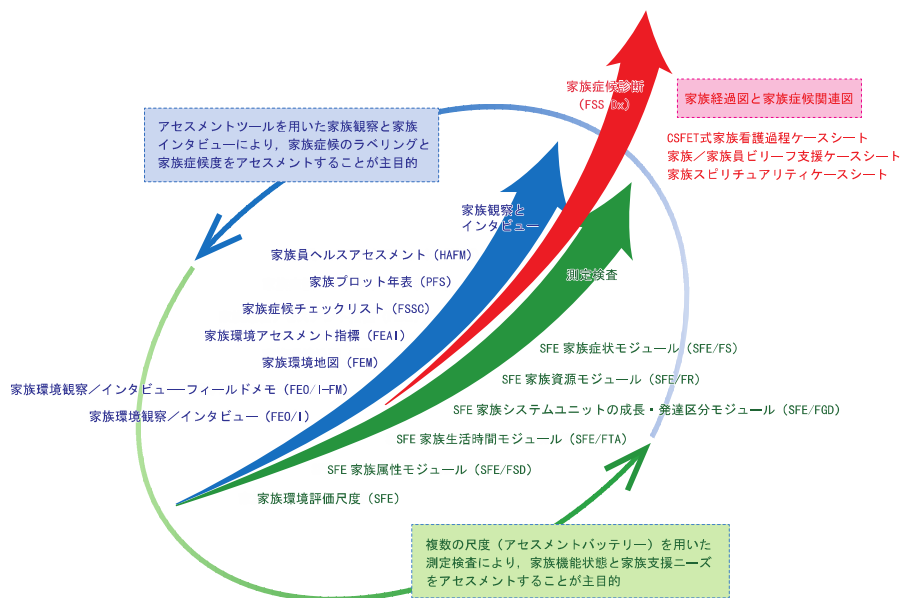


図1. 家族環境アセスメントモデル(バージョン3.2)

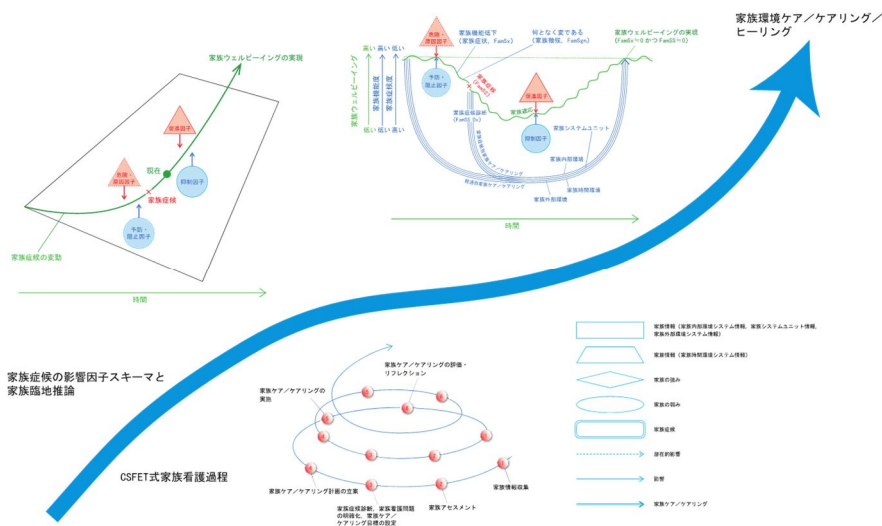


図2. 家族環境ケア/ケアリング/ヒーリングモデル(バージョン2.6)

(2) 家族アセスメント/家族支援のメソッド

具体的な家族アセスメント/家族支援のメソッドとして、家族/家族員ビリーフ支援、治療的コミュニケーション、ケースシートなどを開発した。

家族/家族員ビリーフ支援の開発

ある特定の家族/家族員イベントに対して、ポジティブ家族員ビリーフを認識基準とした家族員の意図的な感情、判断・行為、身体反応、ポジティブ家族員ビリーフを認識基準とした家族の意図的な判断・行為を導くための支援である(図3)。直接家族/家族員ビリーフ支援(家族/家族員ビリーフに直接的に働きかける支援)として、ビリーフ顕在化、ビリーフ転換、ビリーフ強化、ビリーフ付与、ビリーフ統一、ビリーフ維持を開発した。

治療的コミュニケーションの開発

看護職者と家族/家族員との間の言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションのうち、意図的・非意図的にかかわらず家族ケア/ケアリング/ヒーリングの効果をもつ相互作用のプロセスである。

ケースシートの開発

CSFET 式家族看護過程ケースシート (CSFET 式家族看護過程の実施で使用する様式)、家族/家族員ビリーフ支援ケースシート (家族/家族員ビリーフ支援の実施で使用する様式)、家族スピリチュアリティケースシート (家族スピリチュアリティのアセスメントで使用する様式)を開発した。とくに、家族スピリチュアリティケースシートは、家族インタビュー/ミーティングにおいて、家族の超自然的存在、超科学的存在、家族の存在意義、家族の目標・目的を明確にし、家族スピリチュアリティをアセスメントするためのツールである。

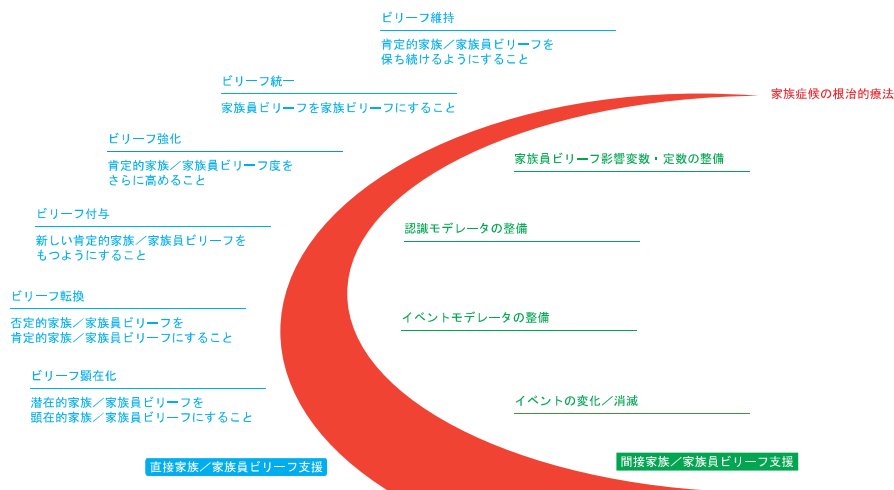


図3. 家族/家族員ビリーフ支援 (バージョン 1.1)

(3) 3 大家族看護理論などの提唱と修正

研究代表者が提唱した 3 大家族看護理論は、家族同心球環境理論、家族ケア/ケアリング/ヒーリング理論 (Family Care/Caring/Healing Theory, FC2HT)、家族ビリーフシステム理論 (Family Belief Systems Theory, FBST) である。家族同心球環境理論にもとづいた家族看護活動を行うための理論が家族ケア/ケアリング/ヒーリング理論であり、家族同心球環境理論の機能性項目である“家族支援看護職者と協働者”と家族システムユニットの関係で生じる現象を説明する。また、家族同心球環境理論の機能性項目である“家族のルール・ビリーフ”に特化した理論が家族ビリーフシステム理論である。その他に、研究代表者は、家族システムユニットの三元理論 (Trichotomous Theory of the Family System Unit, TTFSU)、家族スピリチュアリティ理論 (Theory of Family Spirituality, TFS)、家族トランセンデンス理論 (Family Transcendence Theory, FTT) などを提唱している。

家族同心球環境理論

時間軸と空間軸から家族システムユニットを捉え、ホリスティックな家族の高次元存在を射程とし、家族ウェルビーイングに作用する家族環境に焦点化した家族看護中範囲理論である (図 4)。

家族ケア/ケアリング/ヒーリング理論

家族システムユニットと看護職者との関係で生じる看護現象と家族現象を説明し、家族ケア/ケアリング関係の確立過程に焦点化した家族看護中範囲理論である。

家族ビリーフシステム理論

家族システムユニットの意図的な判断・行為を制御する家族/家族員ビリーフに特化した家族看護中範囲理論である。

家族システムユニットの三元理論

家族システムユニットは、物理体、心理体、スピリチュアル体から構成されており、これら三体が相互連関している統一体であることを規定する家族看護大理論である。

家族スピリチュアリティ理論

超越次元において、家族スピリチュアリティが家族に存在意義を与え、家族適応、自己実現、家族ウェルビーイングをもたらす過程を説明する家族看護中範囲理論である。

家族トランセンデンス理論

家族システムユニットを物質主義的・合理主義的な現実世界という観点からではなく、超自然的・超科学的な宇宙という観点から捉える家族看護中範囲理論である。

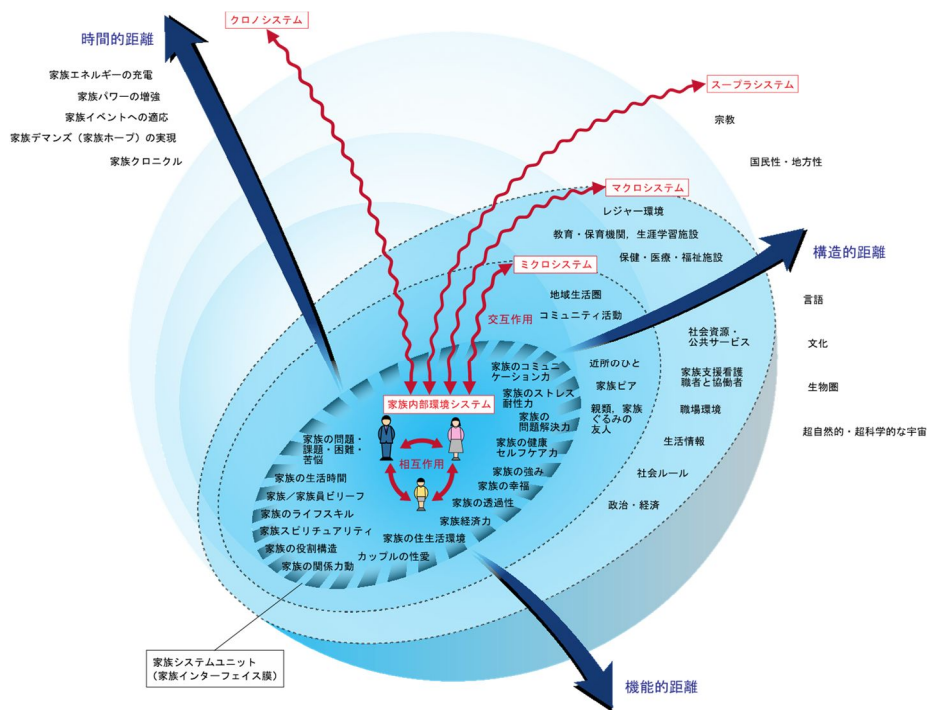


図4. 家族同心球環境モデル (家族同心球環境理論の概念図)(バージョン3.3)

(4) 理論のトランスレーション (基礎研究の成果を臨地現場に応用する研究)

開発したツール, 理論などは, 英語, 中国語 (簡体字, 繁体字), インドネシア語, フィリピン語などの翻訳版を作成した. 研究成果は, 学会誌での公表に加え, カンファレンスでの演題発表・交流会集・基調講演などを行って国内外に発信し, 看護職者による家族支援に役立てた.

“CSFET 式ナースの家族お悩み相談室” では, 日本の幅広い地域 (都心部, 地方部, 島嶼部, 山間部など) とさまざまな国・地域 (中国本土・香港, インドネシア, フィリピン, ベトナムなど) において, 一般市民の家族を対象として, 対面あるいはオンラインで家族支援を実践した (図5). これは理論のトランスレーションとしての意義をもち, 一般市民の家族の家族ウェルビーイングの実現にも貢献している.

図5. “CSFET 式ナースの家族お悩み相談室” のリーフレット (表面)

(5) 今後の展望

家族同心球環境理論は, 開発研究と臨地応用の相乗的な往還により 理論の破れを発見したり, 創造的な検証 (実証) と改良 (精緻化) を繰り返しながら発展させており, 最新バージョンは 3.3 である. 今後も, 改良 (精緻化) を行い, より堅固な理論にすることが望まれる. また, グローバルな理論として確立しているが, 今後は国内外で社会実装するための普及研究が求められる.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計92件（うち査読付論文 63件 / うち国際共著 24件 / うちオープンアクセス 39件）

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 Satoshi Takatani, Junko Honda, Naohiro Hohashi | 4. 巻 18 |
| 2. 論文標題 Development and psychometric testing of a Family Concordance Competency Scale for Families with Children Having Chronic Illness | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Japan Journal of Nursing Science | 6. 最初と最後の頁 e12419 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jjns.12419 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 Naohiro Hohashi | 4. 巻 30 |
| 2. 論文標題 A Family Belief Systems Theory for transcultural family health care nursing | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 Journal of Transcultural Nursing | 6. 最初と最後の頁 434-443 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1043659619853017 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------|
| 1. 著者名 Qinqiuzi Yi, Junko Honda, Naohiro Hohashi | 4. 巻 27 |
| 2. 論文標題 Development and validity testing of an Assessment Tool for Domestic Elder Abuse | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 The Journal of Nursing Research | 6. 最初と最後の頁 e12 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/jnr.0000000000000278 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |

| | |
|--|------------------------|
| 1. 著者名 Qinqiuzi Yi, Naohiro Hohashi | 4. 巻 13 |
| 2. 論文標題 Comparison of perceptions of domestic elder abuse among healthcare workers based on the Knowledge-Attitude-Behavior (KAB) model | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 PLoS ONE | 6. 最初と最後の頁 e0206640 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0206640 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |

〔学会発表〕 計97件（うち招待講演 22件 / うち国際学会 43件）

| |
|---|
| 1. 発表者名 Naohiro Hohashi |
| 2. 発表標題 The operation and practice of remote consultation to convey 'heart and life' to families |
| 3. 学会等名 1st East Borneo Health International Conference (EBHIC) (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Naohiro Hohashi |
| 2. 発表標題 Development of the Family Care/Caring/Healing Theory |
| 3. 学会等名 The 1st Cross-Cultural International Conference on SKT, an Integrative Caring and Meditation Healing Exercise: CD and NCD Caring (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Naohiro Hohashi |
| 2. 発表標題 Meeting the challenge of creating family culture-congruent nursing studies |
| 3. 学会等名 Transcultural Nursing Society Conference in Japan 2020 (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Naohiro Hohashi |
| 2. 発表標題 The Concentric Sphere Family Environment Theory and clinical applications in family nursing |
| 3. 学会等名 The 3rd Riau International Nursing Conference (RINC) (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

〔図書〕 計10件

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 Qinqiuzi Yi, Naohiro Hohashi | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 Editex | 5. 総ページ数 8 |
| 3. 書名 KAB Questionnaire-1.1EN (A survey of healthcare workers' perceptions of domestic elder abuse) | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 法橋尚宏, 渡邊幹生 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 エディテクス | 5. 総ページ数 51 |
| 3. 書名 FEAI-JA (家族環境アセスメント指標) (バージョン3.3対応版) | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 法橋尚宏 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 エディテクス | 5. 総ページ数 55 |
| 3. 書名 FEM-J (家族環境地図) のアセスメントガイド (バージョン3.0対応版) | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

| |
|---|
| <p>Nursing Scientist https://nursingresearch.jp/ Virtual Conference https://virtualconference.jp/ Nursing Scientist https://nursingresearch.jp/ Virtual Conference https://virtualconference.jp/ Nursing Scientist https://nursingresearch.jp/</p> |
|---|

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|---|----|
| 研究分担者 | 深堀 浩樹 (Fukahori Hiroki) (30381916) | 慶應義塾大学・看護医療学部(藤沢)・教授 (32612) | |
| 研究分担者 | 小林 京子 (Kobayashi Kyoko) (30437446) | 聖路加国際大学・大学院看護学研究科・教授 (32633) | |
| 研究分担者 | 三木 佳子 (Miki Yoshiko) (60584175) | 聖カタリナ大学・人間健康福祉学部・教授 (36302) | |
| 研究分担者 | 池田 真理 (Ikeda Mari) (70610210) | 東京大学・大学院医学系研究科(医学部)・教授 (12601) | |
| 研究分担者 | 濱本 知寿香 (Hamamoto Chizuka) (00338609) | 大東文化大学・経済学部・教授 (32636) | |
| 研究分担者 | 堀口 範奈 (Horiguchi Hanna) (30870505) | 神戸大学・保健学研究科・助教 (14501) | |
| 研究分担者 | 本田 順子 (Honda Junko) (50585057) | 神戸大学・保健学研究科・講師 (14501) | |
| 研究分担者 | 島田 なつき (Shimada Natsuki) (10817183) | 神戸大学・医学部附属病院・看護師 (14501) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------------------|---|---|----|
| 研究 分 担 者 | 道上 咲季 (Michigami Saki) (40817813) | 独立行政法人国立病院機構（東京医療センター臨床研究センター）・政策医療企画研究部・研究員 (82643) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 | | | |
|---------|--------------------------------------|-------------------------------|------------------------|------|
| | | | | |
| 中国 | The Hong Kong Polytechnic University | China Three Gorges University | G for health | 他1機関 |
| インドネシア | Universitas Riau | | | |
| 米国 | Watson Caring Science Institute | Florida Atlantic University | University of Michigan | |
| フィリピン | Systems Plus College Foundation | | | |